

## グローバル志向の若者を育てたい

### —日米高校生交流を OB / OG もサポート

将来を担う子どもたちの未来を支援することが企業として果たすべき責任と考える AIU 保険会社は、CSR 活動のメインテーマを「子どもたちとその未来」としている。具体的な活動としては、「いじめ防止標語コンテスト」、「英語で、楽しく SUMIDA」（本社所在地墨田区の中学校での英語授業ボランティア）などがあるが、本稿では、日米双方向の高校生の異文化交流を長年促進してきたプログラムを紹介したい。

#### 2つの国際交流プログラム

同社は、1946年に外資系損害保険会社として戦後初めて日本で営業を開始した。日本進出40周年を機に、87年に社会貢献事業の一環として支援しはじめた活動が「AIU 高校生国際交流プログラム」である。この活動は、同社とフリーマン財団<sup>(注)</sup>が拠出した資金を基に「AIU 高校生国際交流プログラム実行委員会」が独自にプログラムを運営し、国際社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を目的としている。

プログラムは、「AIU 高校生国際交流プログラム（渡米プログラム）：AIU High School Diplomats = HSD」と「AIU 米国高校生国際交流プログラム（国内プログラム）：AIU US High School Diplomats = USHSD」の2つで構成されている。

最初にスタートしたのは HSD。87年に20人の東京の高校生を米国に派遣し、いろいろな場所を見学してまわり、米国の高校生と交流するというかたちで始まった。その後、全国から参加者を募り選抜するように拡大し、現在では毎年男女各20人ずつ計40人の高校生を米国に送っている。

94年には米国の高校生を招いて、日本の文化に触れてもらい、日本の高校生と交流するとい

う姉妹プログラム（USHSD）を始めた。毎年20人（男女各10人）の米国の高校生が来日し、日本の高校生と交流している。

注：中国・北京市生まれで20年間にわたり日本で AIU 保険会社の責任者を務め、アジア・日本をこよなく愛した故ホートン・フリーマン氏が92年に創設した財団。アジアの学生への奨学金、日米高校生の国際交流、日本の寺院の修復・保全などを長年支援している。



プログラム感想文集

#### 日米高校生が共に過ごす10日間

HSDの昨年の応募者は770人に上った。書類選考で80人程度に絞り、面接などの2次選考を経て男女各20人が選抜される。倍率は約20倍とかなり高い。

面接では、英語力に加えて本人の意欲やグループ活動におけるパフォーマンスも選考対象となる。英文名称に“High School Diplomats”とあるように、「高校生外交官」として進んで意見交換ができる積極性も必要となる。

プログラムは夏休みに実施される。2泊3日の事前合宿では日本の文化を紹介する英語でのプレゼンや日本文化紹介の準備をし、その後、約3週間米国に派遣される。以下、プログラムの内容を紹介したい。

「ツアープログラム」では、歴史や文化を学び米国への理解を深めるためにいろいろな場所に行くが、普通の観光ツアーでは行けないところが数多く含まれている。例えば、国務省、国防総省、米国会議事堂、国連、IMF、NY証券取引所、移民博物館、グラウンドゼロ博物館、ハーレム（ボランティア活動実



国務省で担当官の  
説明を聞く



ハーレムで子どもたち  
と折り紙を楽しむ

施) などだ。普段行けない所で普段会えない人と  
会うのだが、高校生外交官として堂々と、大人だ  
と遠慮して聞けないような鋭い質問も出るそうだ。

「ホームステイプログラム」は主にプログラムを  
経験した生徒の家族が受け入れる。3泊4日の短  
期間だが密度の濃い家庭生活を体験し、ありのま  
まのアメリカ人への理解を深める。

最後の10日間は日米の高校生が交流する「エ  
クスチェンジプログラム」。プリンストン大学の学生  
寮を借り、日米の高校生がペアを組んでルームメ  
イトになり共同生活をする。ずっと一緒にいると  
時にはぶつかることもあるそうだが、そういう体  
験を通じて人としての交流を深めることができ、  
お互いの異文化理解につながっていく。

USHSDは米国の高校生が日本に招聘されるプ  
ログラムで、HSDとほぼ同様の内容だ。広島に行  
き京都で座禅体験をしたりするが、今年は総理官  
邸も訪問した。そして、日本の高校生がエクスチェ



ジャパニーズフェスティバル  
で書道にトライ

米国の高校生も  
日本舞踊を披露



ンジプログラムに参加し、米国の高校生と交流する。

## 異文化に触れる喜びを伝えたい

この活動のユニークさは、卒業生と事務局が一  
緒になって、手づくりで進めていることだ。本人  
が経験しているから参加生徒の気持ちがよく分か  
り、かゆい所に手の届くような気配りをしてくれ  
る。「いろいろなかたちで交流し異文化理解を深  
めることは、高校生にとってすごく心に残るもの  
で、いい経験をしたから後輩にはそれ以上の経験  
をさせたいということで手伝ってくれる。本当に  
熱心です」(AIU 高校生国際交流プログラム副事

務局長・大森直美  
さん)。



仲良くなったルームメイトと

このプログラ  
ムの卒業生は、本年  
で1728人も多  
数に上っている。

その多くはグロー  
バルな仕事に就

いているそうだ。節目の25周年となる今年は10  
月に大きな同窓会(りんご会)が開催されるが、  
彼らはどのような会話をするのであろうか。

「狭い世界で生きてきた僕の視野を大きく広げ、  
一回り成長させてくれました」(東京都・2年生  
男子)、「私にとって濃くて重くて刺激が強く、一  
生の宝になるほどの3週間でした」(秋田県・2  
年生女子)。

彼らの感想を読むと、この体験を通じて狭い自  
分の世界から脱皮し、世界に目を向ける若者が多  
いことに気づく。国境を飛び越え、ますますグロー  
バル化がすすむ時代に、この活動への期待は大き  
い。

(本誌編集部 間島輝利) ■

※取材協力・写真提供:「AIU 高校生国際交流プログラム」事務  
局、AIU 保険会社

### ◆ AIU 保険の CSR 活動

[http://www.aiu.co.jp/about\\_us/contribute](http://www.aiu.co.jp/about_us/contribute)

### ◆ AIU 高校生交流プログラム

<http://www.highschooldiplomats.org>